

【緑被率経年変化調査の概要】

市では、昭和 48 年からおおむね 5 年ごとに、みどりの現況と推移を把握するため緑被率経年変化調査を実施しています。

1. 調査の目的

本市が掲げる“彩りあふれる みどりの朝霞”を実現するための一環として、緑被率の概要と変遷を把握することを主な目的とします。これは、環境行政の一助になるとともに、他の関連行政にも反映することができる重要な基礎資料となる調査です。

2. 調査内容

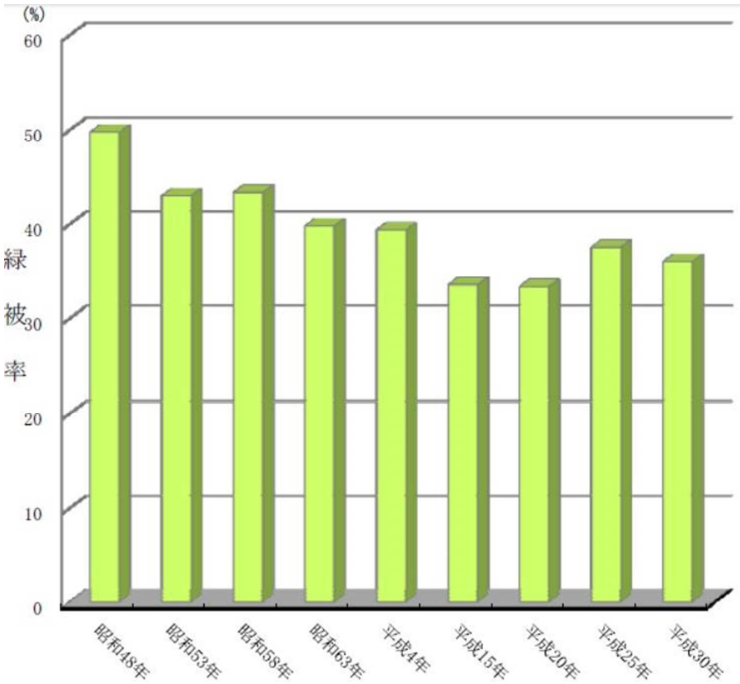
航空写真の判読による調査です。縮尺 1/12,500（平成 15 年のみ 1/3,000）の航空写真を使用し、平成 20 年まではステレオスコープを用いて、平成 25 年以降はカラーデジタルオルソ画像及び赤外カラーデジタルオルソ画像を用いて緑被地を抽出し、判定しました。なお、判読の対象となる緑被地の単位面積は、平成 20 年まではおおむね 25 m²でしたが、平成 25 年以降は調査精度の向上により 10 m²になっています。

3. 緑被地面積と緑被率の経年変化

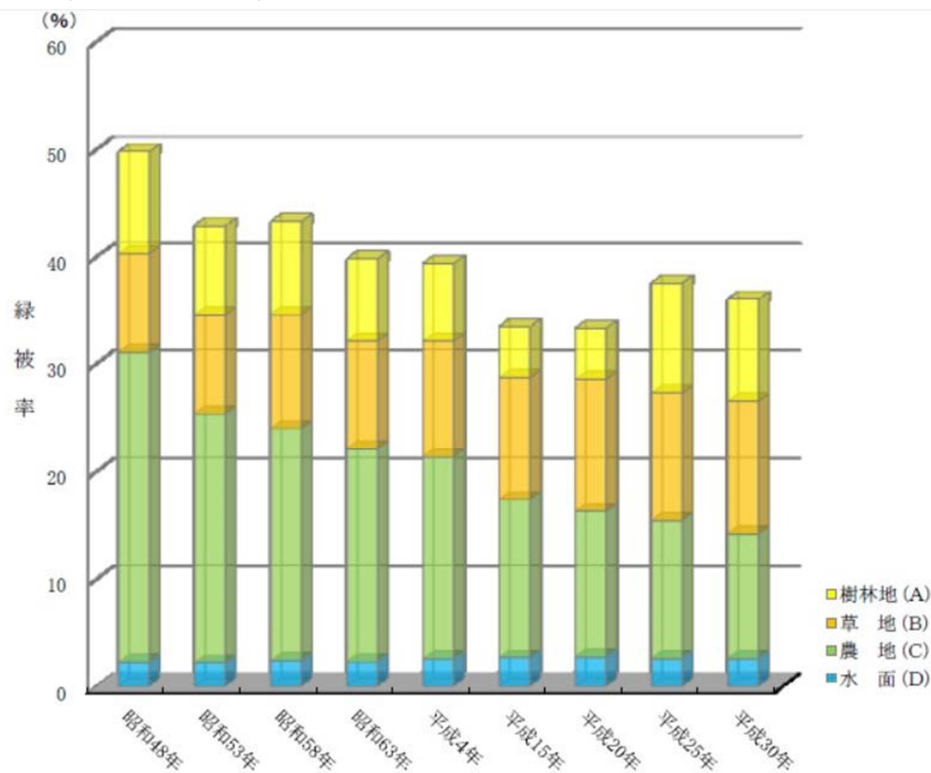
	昭和 48 年	昭和 53 年	昭和 58 年	昭和 63 年	平成 4 年
緑被地面積（㎡）	9,112,798	7,866,824	7,934,864	7,286,355	7,211,697
緑被率（％）	49.75	42.95	43.32	39.78	39.37

	平成 15 年	平成 20 年	平成 25 年	平成 30 年
緑被地面積（㎡）	6,139,500	6,107,178	6,899,751	6,619,932
緑被率（％）	33.52	33.34	37.54	36.10

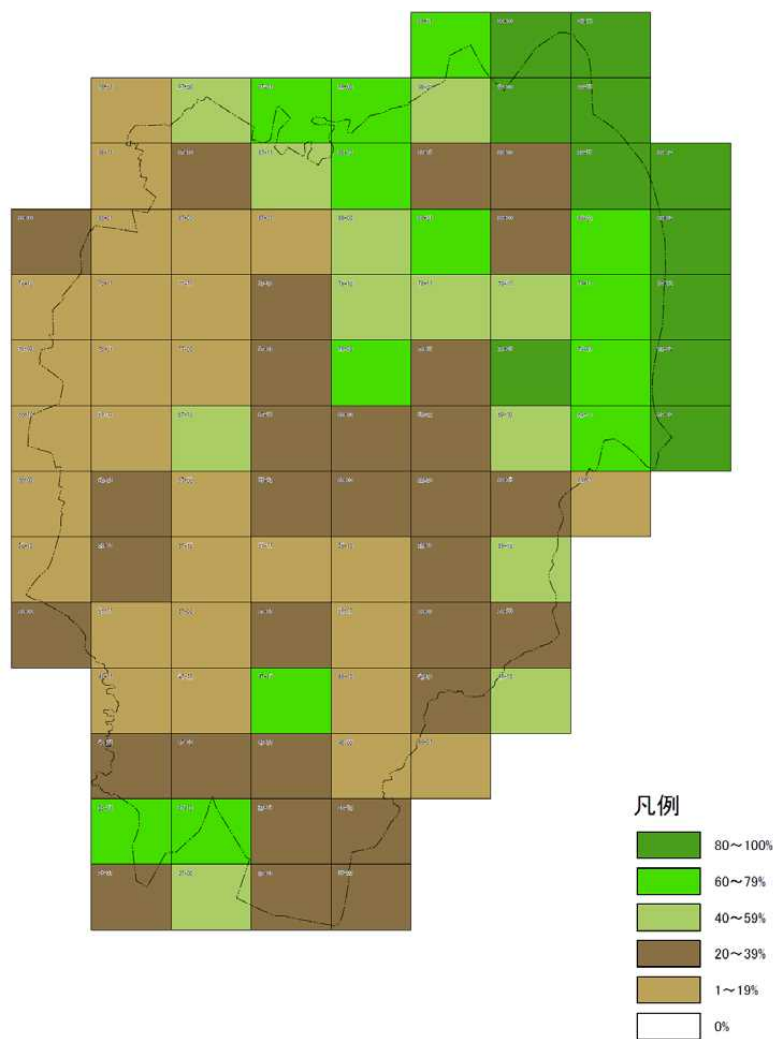
※昭和 48 年から平成 20 年までについては、総面積を 18.317k m²として緑被率を計算した。
平成 25 年は総面積を 18.38k m²、平成 30 年は 18.34k m²で緑被率を計算した。
なお、平成 30 年の総面積を 18.38k m²で計算すると、緑被率は 36.02%となる。



4. 緑被地分類別の緑被率の経年変化

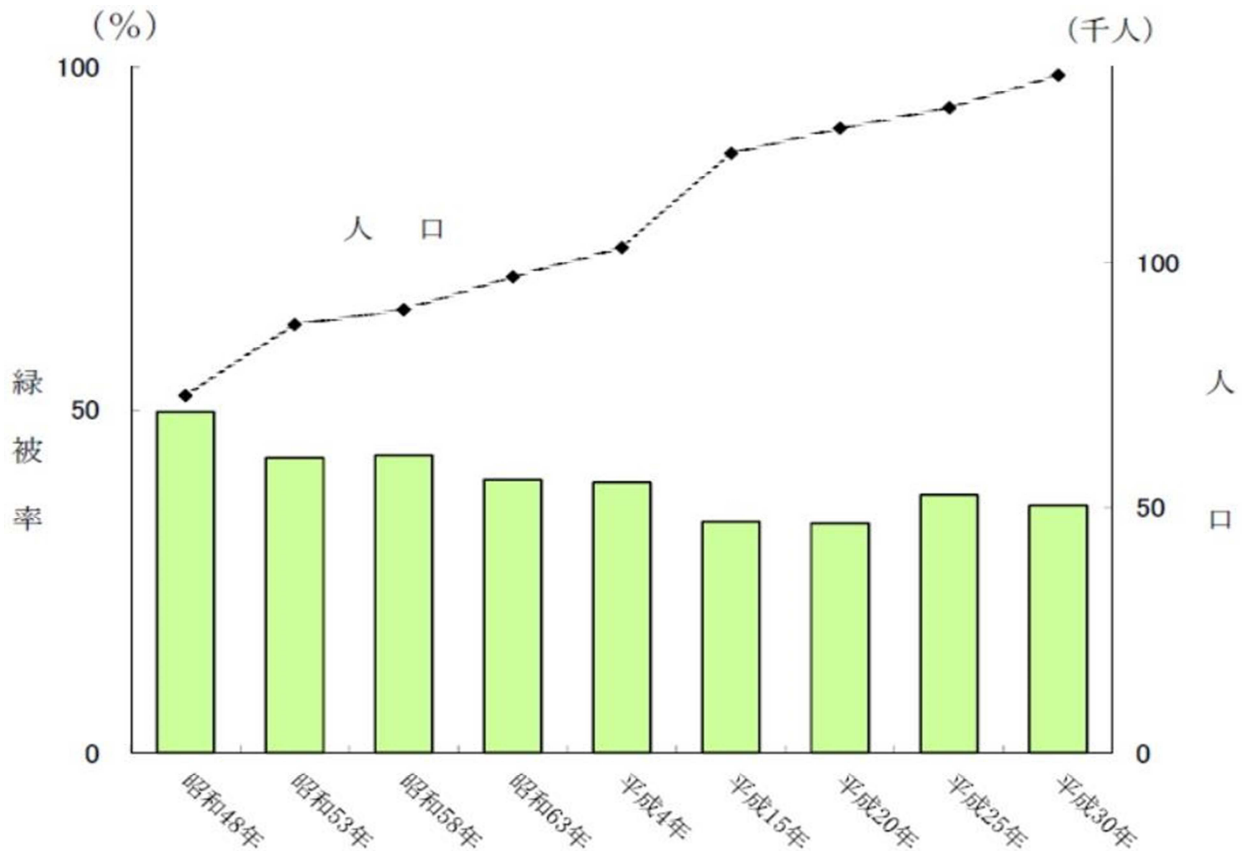


5. メッシュ別緑被分布状況



※メッシュは約 500m で市域を区切ったもの

6. 人口と緑被率の経年変化



7. 緑被率等の推移について

調査の結果、緑被率、緑被地面積、一人当たりの緑被地面積は、昭和48年から平成20年にかけていずれも減少し続けていましたが、平成25年にかけて増加し、平成30年には減少に転じています。平成25年の一時的な増加については、それまでは調査技術の影響により小規模な緑被地の抽出が困難であり、ある程度まとまりのある緑被地しか抽出することができませんでしたが、調査技術の向上により公共施設内や住宅地内等の小規模な緑被地の抽出により精緻な調査が可能となったためであると考えられます。したがって、社会情勢の変化等により、実質的な緑地の量としては減少し続けているものと推察されます。また、これと関連し、基本的には人口の増加に反比例して緑被地及び緑被率が減少しているといえます。

緑被地分類別にみると、公共的施設の草地や公共的施設以外の草地が増加していました。理由として、宅地や工場の緑化や河川沿いの緑地などを抽出できるようになったことが想定されますが、一方で、林地や農地は年々減少しています。いずれの緑被地についても本市の人口増加に伴う宅地需要の高まりから林地や農地が宅地に転用されたことが原因と考えられます。ただし、農地の減少については、全国的な傾向として産業としての農業が縮小傾向にあることが農地規模の推移にも表れているものと想定されます。

住宅地内をはじめとした民地の緑被地は、市民や事業者の緑化に対する意識の高まりが表れているものであり、土地利用上、市内でまとまりのある緑被地の創出が困難な現状において、こうした小規模な緑被地の重要性が高まっています。人口増加に伴う都市化の進展が進む本市では、今後、市民、事業者、市等が連携し、小規模でも緑被地の創出に努めるとともに、緑被地の量だけでなく、質の高い緑被地を創出していくことが求められます。